

大きな石が沢をドンと塞いでいる場所を通り、ワサビ沢に入ってから約30分で源頭となる。右俣めざしてヤブこぎ開始。

もう一つ特記すべきことがある。このワサビ沢一帯は、ブナの原生林である。林道より遠く、まだ伐採の手が届いていないのであろう。胸高直径は、どれもこれも1mを楽にこす。森林生態学上は「ブナの極生相」を形成している。そのせいか、下層植生は少なく、ヤブこぎも楽で、なんなく右俣源頭に出ることができた。

(記・

[タイム] ワサビ沢出合(11:55)→二俣(12:00)→遡行終了(12:30)

大深谷沢左俣

1986年6月7日

L

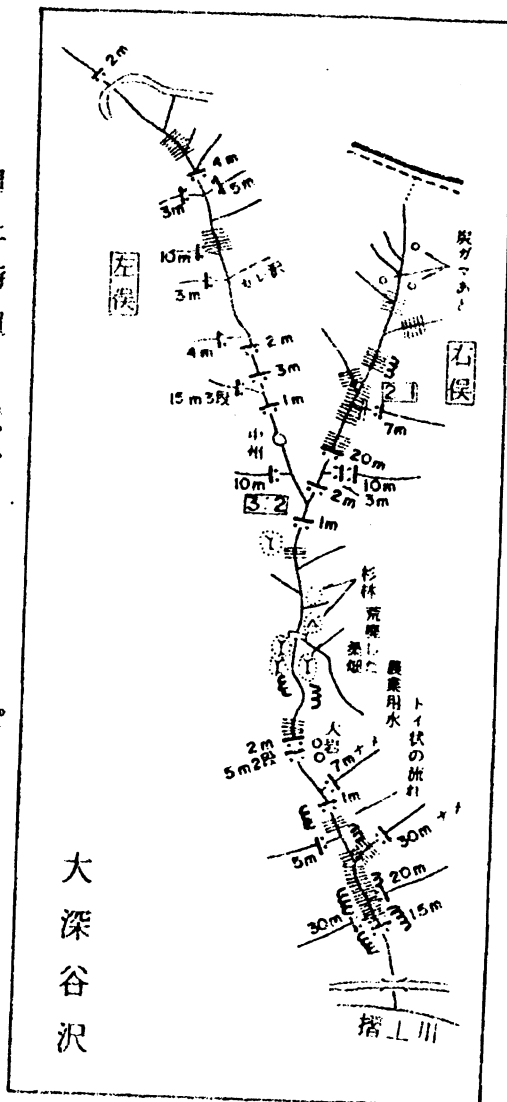
大深谷沢二俣までは、1982年5月23日に、西・橋内パーティが右俣を遡行したときの記録があり、4年たった今も、特に変化はないので、そちらの記録を参照されたい。

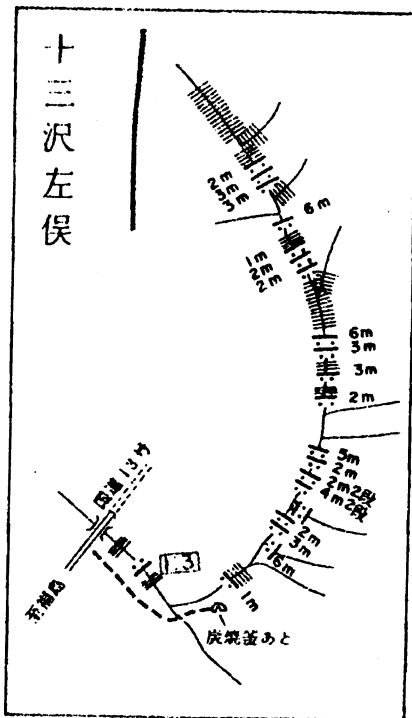
二俣より15分ほどで、右岸より10m滝が合流している。その先さらに15分ほどで同じく右岸より15m三段滝が合流し、本流の方はここに3mの滝をかける。沢登りは今日が初めての菱沼も、この滝は難なく登れた。

12時20分、源頭部手前の4m滝に出る。この滝は、右岸を楽に直登できるが、菱沼を確保するために、ザイルを出した。

このあとすぐ二俣となって、源頭部を迎える。水量もかなり少なくなる。これより20分ほどで林道に出る。

林道のそばに小滝がかかっているのですが、林道上部を見に行くが、5分ほどで水は涸れた。





沢登りは今日が初めての藪沼の訓練と遊歩調査をかねて、比較的悪場のなさそうな沢ということで、この沢を選んだ。予想通りほとんど河原歩きであったが、初心者の藪沼にとっては、かなり緊張の連続であったようだ。

(記)

[タイム] 大深谷沢橋(9:30)→二俣(10:40)→右俣終了(13:10)

十三沢左俣

1986年6月7日

L

今年になって、初めての沢登りである。福島を13時に出発。国道13号線を北上する。

東栗子第一トンネルの入口が十三沢の出合である。トンネルの入口に車を置いて入谷する。

歩き初めて約10分、左俣の出合である。左俣に入ってからすぐに、左岸に炭焼き釜の跡がある。掃りに気がついたのであるが、この釜跡より、国道まで歩道がついていたのである。

沢幅はさほど広くないが、小滝がポツリポツリと、ナメの沢である。左岸より6mの滝をかけて支沢が合流した先に、熊ならぬ人間が出現。山菜採りに来た人である。

2mの二段滝を過ぎると、2m、5mと続く連瀑である。ホールドがなく、さらにはヌルがついていて、やりにくい。私が中央を強引に突破して、二人を確保し、無事三人登ることができた。掃りは当然懸垂である。同行の小野さんは、初体験。ぶっつけ本番とはこのこと。

この先3m程度のもので、あきることなく出現。沢のほぼ中間あたりに6mの滝。シャワーで中央を越えられそうであるが、安全を期して左岸に取り付く。

沢に入って約一時間。沢にはだんだんヤブがかぶさり、傾斜もきつくなってきた。源頭と思われる。ここで終了として、掃路につく。

地図から判断すると、どうってことない沢と思われたが、今年初めての沢としては、けっこう楽しめた沢登りであった。

(記)